

やまぼうし通信

NO 129 2023年1月16日

先行き不透明な時代に入りました。飛ぶ鬼の如く、過去の自分を跳び越える年に！

理事長 伊藤 勲

会員の皆様の献身的な努力に支えられ、新年を迎えることができました。心より感謝申し上げます。



しかし、コロナ禍は依然として沈静化せずにはいますし、不況が長期化する中で、医療・福祉の現場崩壊が深刻化しています。それに加えて、ウクライナや台湾海峡での軍事的緊張から、世界は「第三次世界大戦前夜」の様相を強めています。どうすれば、私達の命と暮らしを守っていくのか問われています。

「やまぼうし新時代の構築」をこの3年間構築してきました。

やまぼうしは「20周年事業」の課題として「持続可能な事業体制に移行する」ことを掲げてきました。

その1の「やまぼうしの経営改善計画」では「事業収支の改善」を掲げ、赤字事業部門の事業見直しに取り組んできました。その結果、大幅に改善できた事業所がある一方、改善効果を出せずに「低迷」している事業所もあります。昨年度は、法人全体では「単年度収支は黒字」を計上していますが、事業の再編制も不可避の状況にあります。

その2の「次世代承継体制へ移行」では、「エンプロジェクト」が立ち上がり、「やまもりの定期発行」が定着してきました。本部主導型の経営管理から、現場の中堅層を核にした「マネジメント」と「情報共有化」「研修事業」で大きな前進を見せています。今後、法人の事業執行体制の整備と人材確保・育成に向けた「全員参加型の職場づくり」（障害者等就労困難者も含む）が課題です。

その3の「共生・協働のまちづくり」の推進では、「事業規模の適正化」と「コミュニティニーズに対応する事業連携」の推進を課題としてきました。この間、「日野プラスチック資源化工場」と「多摩障害者スポーツセンターのカフェ事業」を新たに創設した「ソーシャルファームミレットロード」で受託して対応してきています。さらに、今年度は八王子市松ケ谷団地の空き商店街の活性化事業に参画しています。その中核となる「就労B型 共に働く たまてばこ」で、「従来の就労B型事業の限界」を超える新たなアプローチを開始しました。「たまてばこ」で元ふれあいの森カフェの利用者・スタッフが活躍しています。

ミレットロードは、多面的重層的プラットフォームの立ち上げを進めています。

全国各地で急増している「コミュニティ崩壊現象を打開する道」には、「諸力融合」しかありません。

ミレットロードは、「F(フード)E(エネルギー)C(ケア)自給圏ネットワークの形成」を目指しています。

大規模災害がいつ起きても不思議ではありません。これまで経験したことのない災害(最大の災害は戦争や原発事故)が私達の未来を脅かしています。市民主導でそうした危機に対応できるネットワークの形成に踏み出す時だと考えます。

やまぼうしとミレットロードの協働を道を摸索しましょう！進路選択の時を迎えています。

「戦争は国民を守らない。国民を矛(武器)に国を守る。殺し殺されるのは国民。そんな残酷で悲惨な戦争をしてはならない。阿弥陀仏の願いは、地獄(恐怖)・畜生(隷従)餓鬼(欠乏)からの人解放である。」(尾畑文正 同法大名誉教授)の言葉 曼荼羅ビジョンに通じるメッセージです。

ひのし ひらやまだいけんこう しみんしえん へいさほうしん うだ ひのし 日野市は、「平山台健康・市民支援センター」の閉鎖方針を打ち出しました！

令和5年1月15日 ひらやまだいけんこうしえん ひのし しかくぶ ぎかくけい さいかいしゅさい ひのし じゅうみん いけん
平山台健康支援センターで、日野市企画部企画経営課主催で「日野市と住民との意見
交換会」が開催され、地元自治会と関係団体が参加しました。日野市の呼び掛け文です。

平山台健康・市民支援センターは、平山台小の廃校後の利活用として、地域のコミュニティ、スポーツ・文化、障がい者の居場所、保育、防災など、様々な機能を担う拠点として、平成20年より長らく利用されてきました。その一方で、昭和53年に建築されて以降、43年が経過し、外壁、躯体、配管、電気系統、給排水など至る所で、老朽化が著しく、それに伴う安全面について、課題を残し続けている状況です。このような状況において、市民の皆様の安全確保の観点からも、閉鎖等に向けた検討は避けられない状況であることから、第6次行財政改革大綱実施計画の中で「令和10年度までに段階的利用中止・令和10年度末施設閉鎖」という年次を定めた上での目標を掲げさせていただきました。

日野市としては、普段からご利用されている利用者並びに関係者の皆様に、まずは、施設が抱える課題をお伝えし、その上で、施設が有している機能について、一緒に考えていきたいと思っています。

ぜひ、奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

し きほんほうしん れいわ ねん しせつ へいさ れいわ ねんどまつ だんかいてき じぎょう しゅくしやう
市の基本方針は、「令和10年で施設を閉鎖する。令和9年度末までに段階的に事業を縮小していく。」

跡地利用は、災害用避難場所として活用する。その他の活用方策については、市民と協議していく。」

市側の説明のポイント

- ① **平山地域の歴史** 1925年の京王平山駅の開業に始まる・1969年京王平山住宅の開発開始・1978年平山台小開校・2006年平山台小廃校・2008年平山台健康・市民支援センター開設
- ② **施設の概要** 敷地面積 18,565 m² 建築面積 2,826 m² 延べ面積 5,972 m² 構造 鉄筋コンクリート階数 地上3階 主な利用方法と団体 住民と関係団体で構成される「自主管理委員会」・障害児放課後クラブおおぞら・平山台交流の会・団塊世代広場・平山台文化スポーツクラブ・やまぼうし・栄光平山台
- ③ **施設の有している機能** スポーツ・保育・障害者・地域コミュニティ・高齢者・カフェ・居場所・防災
- ④ **団体別利用状況** 平山台文化スポーツクラブ 令和3年 15,759人 クラブの会員 会員の6割 70代以上 平山地域在住は約36% 放課後クラブ 25人 やまぼうし 26人 交流の会 27人 自治会 817人 保育園 61人 自主管理団体 6団体 校庭3団体 体育館 3団体
- ⑤ **利用者数の推移** 平成30年 40,907人 令和元年 42,213人 令和2年 32,684人 令和3年 41,700人
- ⑥ **躯体の状況・竣工から45年経過 大規模改修(設備・躯体含む)耐震補強は実施していない。建物・設備とも限界**
※ やまぼうしは、障害者就労支援事業を開始するにあたり、厨房と生徒用玄関・1階の共用トイレを東京都や各種財団の助成金を活用し、全面的に改修してきた。このことについて記述なし。
- ⑦ **過去7年間の主な修繕・維持管理コスト・主な修繕** 体育館火災報知器設備・体育館照明LED化電灯幹線更新キュービクル更新等 維持コストは、年間平均2600万円。
- ⑧ **耐震診断・補強・大規模改修・建て替えた場合の試算** 耐震診断 大規模改修 1,498,505(千円) 建て替えの場合 2,583,774(千円) 公共施設における事故 学校施設老朽化による事故 5年間で2倍に。
- ⑨ **日野市と平山地域の人口動向** 日野市全域では、人口・世帯数ともに、この24年間で増加。平山地域では、この24年間で、人口500人減・世帯数は900世帯増・・単身世帯(独身)の増加加速している。

※参加者から、センターが平山台で果たしてきた役割は極めて大きい。今後も市民の暮らしをささえる場を確保して欲しいとの意見が多く出されました。やまぼうしの対応も注目されています。コミュニティ再生と新たな就労支援のシステム開発の視点からの対処方針の意見集約を進めていきます。